

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2691200154		
法人名	社会福祉法人悠仁福祉会		
事業所名	グループホーム鳳凰榎島 (浮舟)		
所在地	京都府宇治市榎島町大川原35-5		
自己評価作成日	平成27年度6月5日	評価結果市町村受理日	平成27年8月28日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

思い出の場や本人がいま行きたいと思う所を聞き(弘法の滝、銭湯、夜景、床屋、喫茶店)付き添い社会とのつながりが切れないよう支援している。個々にあった生活が支援できるよう趣味や余暇活動をケアプランに取り入れ取り組みややりがいを見つける関りが出来ている。在宅で生活していた頃に習慣になっている事を取り入れグループホームでの生活の中でも継続して行えるように力を入れている。共同生活の場では家庭菜園を行い、収穫し食卓に出るなど入居者の楽しみにもなっている。職員同士が意見を出せる環境であり働きやすい環境である、また外部や内部でも研修に参加出来る機会も多くやりがいがある職場です。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2691200154-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2691200154-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口町上ル梅湊町83-1「ひと・まち交流館 京都」1階		
訪問調査日	平成27年7月6日		

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

宇治市北西に位置する榎島町に、京都府が平成26年5月に地域に開かれた多世代交流の街づくりを目指す新しい型の団地を竣工し、「なごみりあ榎島」と命名した。この団地の一角に社会福祉法人悠仁福祉会(武田病院グループ)が、グループホーム鳳凰榎島・複合型施設鳳凰榎島(看護小規模多機能型)を地域密着型事業所として6月に開設した。訪問看護・訪問介護・居宅介護支援事業所も併設して多様な要望に対応している。別法人ではあるが、障害者グループホームや保育園もありお互いに協力体制を築いて、まさしく地域に根差した活動を広げようとしている。悠仁会の理念「思いやりのこころ」を基に、「私たちは、利用者様が悠々と心穏やかにゆったりと過ごしていただけるように尊敬と思いやりの心を持って支援します」を事業所の理念として、「一人ひとりの思い」を大切に、「在宅での生活が出来うる限り継続」出来る様な支援を考えている。幼老のふれあいの機会として、入居者手作りの「宝(びっくり箱・スノードーム等)」で保育園児と「宝さがし」ゲームをして大騒ぎしたり、信楽に出掛けて狸(置物)と会ったり、銭湯に行つてのんびり湯に浸かっている。開設一年でこんなに頑張っている事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に理念を掲示している。朝の朝礼の時に声に出し読み上げている、その人らしい暮らしができるよう取り組んでいる。	武田病院グループの理念と事業所の理念を全職員が共有し、朝礼で唱和する事により理念に沿った支援が実践出来るように努めている。更に、管理者は、職員が「心穏やかにゆとりを持って」入居者に接する事が出来る様に「何事にも頑張りすぎない様に」とアドバイスしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の参加、近隣の保育園との交流、他の法人との合同消防訓練など行っている。散歩へ出た時に、近隣の方へのあいさつ。テラスから小学生などとの交流・会話を楽しんでいる。	自治会の会合に出席し、事業所の状況を説明したり意見交換を行っている。事業所の向かいにある保育所の園児との交流会を持ち、幼老のふれ合いの機会を大切にしている。定期的に団地内のごみ拾いを行い、地域住民としての役割もはたしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	団地内のゴミ広い活動第2・4日曜日天候によって行っている。地域住民が参加できる勉強会（認知症）を開催予定。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族や地域住民の方から認知症の勉強会の開催の希望の声が上がっている、ご家族には家族会で勉強会も行ったが鳳凰槇島が主催し地域の方も参加出来る企画を考えている、地域住民と一緒に認知症の方を支えられる地域を目指している。	会議は、併設の複合型施設(看護小規模多機能型サービス)と合同で開催している。地域住民代表・地域包括支援センター職員・入居者・入居者家族・系列の特養施設長・施設長その他役職者が出席している。事業所の利用状況や今後の活動予定等を報告し、その後意見交換を行っている。地域の行事の情報を受けたり、地域住民に向けた認知症の勉強会の希望がでており、入居者家族・地域住民等を対象に実施すべく検討している。	運営推進会議では、情報・意見交換が活発に行なわれています。しかし、議事録を行政に提出されていないので、今後市の担当課に持参されて簡単にでも事業所の状況説明等交流の機会にされる事をお勧めします。更に、全入居者家族に「会議の案内と議事録」を送付される事で事業所に対する理解がより深まるのではないのでしょうか。議事録に開催場所が記載されていません。意見交換の内容も、誰が読んでも分かり易い記録の方法を工夫して頂く事を望みます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の受け入れを行っている。運営推進会議でも宇治市から参加していただきご意見をいただいている。利用者の状況について介護保険課や支援課などに相談させていただいている。	行政の担当課には、介護保険制度に関わる相談や報告等を行ってアドバイスを受けている。運営推進会議では、地域包括支援センター職員から地域の情報を得ると共に事業所の状況を理解してもらっている。市から介護相談員も受け入れて連携に努めている。	

京都府 グループホーム鳳凰槇島（浮舟）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6		○代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会を鳳凰槇島で開催している。 勉強会に参加後、これからの生活の見直し、より良いものにする為レポートを提出している。 ほっと報告書（ヒヤリハット）の活用も行い事前に事故予防にも努めている。	年度の教育訓練計画書の中に「職員研修」として身体拘束についての研修も実施している。開設間もない時期には、無断外出があったが全職員で話し合い玄関を常時施錠するのではなく、入居者が外出されたら職員が後ろからそとついて歩き、その方の道順を把握して今後の参考にする手立てをしている。一人ひとりの思いを大切にしようとする意識を全職員が持っている。その他、言葉遣い等にも留意して身体的・精神的にも抑制をしない支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を行い虐待防止・権利擁護について学ぶ機会をつくっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に勉強会の機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際、個々に説明し同意を得ている。家族会でも介護報酬改正についてなど説明を行っている。家族から質問があればその都度返答している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置や満足度アンケートから改善につなげている。改善点は家族会で報告しアンケートの集計結果は閲覧できるよう玄関に設置している。家族からの利用者の余暇の過ごし方等意見を頂き実践している。	家族の意見は、運営推進会議・家族会・年一回のアンケート・意見箱等から聞き取っている。入居者には、日頃の会話等から聞き取ったり、アンケートも行っている。介護相談員を通して聞く機会もある。家族より「幼老のふれ合い」「入居者の過ごした昭和時代の事・戦争の話等回想療法的に、入居者が話し合う機会を作っては？」等の意見が出されている。業務改善委員会で集計しグラフ化して、グループホーム会議で話し合い家族会で報告している。玄関でも文書で公開している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議で提案できる機会を設けている。個別に職員と面談や話ができる場を設けたり、改まった場所でも日頃の中で声をかけて、改善提案につなげている。	職員の意見は、アンケート・会議・管理者との面談等で聞き取る機会を設けている。管理者は、会議の中で話し合うと共に、日常の業務の中で「気づき」が気楽に話し合え、改善に繋げられる雰囲気作りを大切に考えている。職員から休憩室に関する意見が出されている。	

京都府 グループホーム鳳凰槇島（浮舟）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きがいのある職場づくりとしてモチベーションの向上にむけ職員間の交流を行っている。グループホーム会議でも意見が出せる場でもある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会を設けている。外部研修でも自分の興味がある研修に参加出来るよう情報提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開設前には他の事業所に研修をさせていただいた。又、他の事業所を見学できるよう検討している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	普段の会話や様子、家族を交えた面談を概ね3ヶ月に1回実施しサービスの提供に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	普段の会話や家族を交えた面談を概ね3ヶ月に1回実施しサービスの提供に努めている。その都度細かなことでも家族に連絡し話ができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状態の変化など他の介護保険サービスの希望があれば連携させていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に家事等行い、役割りをもって頂き、共に生活をしていることを感じていただくようにしている。会話を多くもち、利用者との信頼関係の構築に努めている。		

京都府 グループホーム鳳凰槇島（浮舟）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に普段の様子を細かく伝え家族と情報の共有に努めている。利用者に少しでも変わった様子が見られれば、家族に連絡し状況を伝えている。行事にお誘いし、利用者と家族と一緒に楽しめる機会を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の中には「今まで通っていた美容院に行きたい。銭湯に行きたい。」と在宅で馴染みのあった場所へ外出する機会を継続して行っている。家族の協力のもと、在宅の頃から続けていたマッサージにも行かれています。	友人や隣人だった方の訪問があった場合は、部屋でゆっくりおしゃべり出来る様に心配りしている。希望を受けて、馴染みの美容室や銭湯等にも出掛けている。一人ひとりの「思い」を受け止め、可能な限り支援に努めている。更に新たな馴染み出来る様に併設事業所等と交流している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の人間関係の把握を行っている。他者に対しての不満等傾聴し、孤立しないよう職員が間に入り、共同生活が苦痛なく送れるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了された方はおられない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が日ごろの会話の中で得た情報を記録に残し、情報を共有し、モニタリングの中で家族の意向や思いを聞き、本人の希望や要望を取り込んでケアプランを作成し、本人の意向に沿ったケアや対応ができるように努めている	日々の会話や行動・仕草などを詳細に、二十四時間生活変化シートに記録している。その他、家族や訪問医等からも情報を得て、一人ひとりの思いや意向を把握する様に努めている。	入居後の日常の様子は、詳細に記録されてその人の情報は良く理解できますが、最初の出会いであるアセスメントシート(様式)が細分化されていて、少し分かりづらい様に思われます。別紙で、その人の全体像が簡単に誰にでも理解出来る様な様式を工夫して作成して頂く事を望みます。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の生活歴や、馴染みのある暮らし方、よく外出していた所等把握を行い、グループホームでも継続できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の状態に合わせて、自由に過ごせるよう見守りを行っている。一人ひとり出来る事は違う為、その方に負担なく出来る事を日々提供し把握を行っている。		

京都府 グループホーム鳳凰槇島（浮舟）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	グループホーム会議や日々のカンファレンスなど考える機会がある。ケアマネ同士のサービス担当者会議でも介護計画について意見交換を行っている。面会時や面談時に家族と話し合っている。	二十四時間生活変化シートから、日常の状況を纏め会議で話し合っってモニタリングをしている。家族等や看護職・主治医からの情報も勘案して、介護計画の継続・見直しを決めて介護計画を作成している。三ヶ月を目途にモニタリングを行い、又必要に応じてその都度話し合いを持って介護計画に反映させ、現状に即した計画に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は、日常生活に関すること、ケアプランに関する事で分けて記録し、またSOAP記録を用いて記録する事で、日々の記録からも問題点や様子を共有でき、かつプランの見直しが行いやすい記録をするようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診への付き添い時、高齢で車の運転が困難な家族に対して、自宅までの送迎を行ったり、病院へ同行し付き添いを行っている。また、看護小規模多機能の利用者との交流も行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのスーパーや行きつけの床屋・喫茶店へ行っては顔なじみの方とお話したり、宇治市サポート事業や市役所での行事に参加したり、近くの保育園の園児たちとの交流できる機会を設けている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の訪問診療を行っている。ご本人やご家族の希望があれば受診を行い、訪問診療以外でも何かあれば相談できる体制をしている。	かかりつけ医の選択は、本人・家族等の希望尊重をしているが、概ね日常の健康管理は訪問診療の医師と事業所の看護職が連携している。夜間は看護職のオンコールで対応し、緊急時の体制も確立出来ている。昼間の外来受診には、協力病院から「救急車両」の送迎支援を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療時や状態の変化など相談できるようにしている。モニタリング時にも記載欄を作り医療面でも意見や様子を伝える事ができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の状況は随時、連絡し状態を把握するようにしている。また、退院前にはICを行い、状態に大きく変化があった場合には、今後の対応を家族や医師、担当者を交えて話し合い、その方にあつた対応を検討し適切なケアが行えるよう努めている。		

京都府 グループホーム鳳凰槇島（浮舟）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療体制にも限界があり看取りまでのケアが現在は出来ないこと説明し入居していただいている、状態の変化などから次のステップに行けるよう話し合いをしている。	入居の契約時に重要事項説明書を基に「看取りに対する考え方」を説明し理解して貰っている。系列の病院（協力病院）との連携体制もあり、今後の状況を鑑みながら前向きな対応を検討していく考えを持っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの設置をしており救急救命講習を受けている。緊急時の対応についても勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を年2回行っている。隣のグループホームとも協力し合同で行っている。	消防計画を基に、年二回消火・避難訓練を消防署職員の立ち会いで実施している。併設の複合型施設と団地内の知的障害者グループホーム（別法人）と協働で行っている。「なごみりあ槇島」団地には、災害時用の炊き出し用かまどベンチや雨水の一時貯留等の設備が用意されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	権利擁護、プライバシーについて研修を行っている。言葉使いや声のかけ方を職員同士も注意しあい、より良いケアに努めている。	研修計画の中に職員研修として、接遇・虐待防止・プライバシー保護についての研修を実施している。全職員は、それぞれ入居者のプライドやプライバシーを尊重した支援に取り組んでいる。親しみを込めた言葉遣い・馴れ馴れしい言葉遣いの違いに留意している。排泄や入浴時の声掛けや対応には、プライドやプライバシーを損ねない様に特に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から会話の中などから本人の思いや希望をくみ取るようにしている。職員からの提案や選択していただける働きかけも行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の要望にそって支援している。一人ひとりの思いにそった時間で過ごせるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品等現在も継続してされている。衣類についても自分で選択していただけるよう努めている。自分でする事が難しい方へは、家族から好んでいた物を聞いたり、自分でされていた頃の状態にあわせて職員が整容を行っている。		

京都府 グループホーム鳳凰槇島（浮舟）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物の希望を聞いたり、調理の準備も出来る範囲でしていただいている。味見や調理についてアドバイスをいただいたり、配膳や下膳も自らや職員と一緒にやっている。	給食会社から食材とメニューが届けられるので、入居者と職員と一緒に食事づくりをしている。若い職員は調理の得意な入居者から味付けなど教えて貰って和やかに協働作業を行っている。昼食レクリエーションでクリームシチューをみんなで作って「おいしー」「頑張って作って良かったー」と明るい笑顔が写真に残っている。お誕生日やイベントにも入居者の好みを聞いて楽しい食事時間にしている。ベランダで栽培した野菜等も献立にいれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業者の協力もしていただいてバランスの取れた食事、一人ひとりにあった食事形態での提供を行っている。食事量や水分量の把握をし、状態をみて補食の提供や、こまめな水分補給を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きをしていただくよう声かけや誘導を行い、清潔保持に努めている。歯の治療には訪問歯科にも来ていただいている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を活用し排泄パターンを把握し声かけや付き添いを行っている。汚染が続けば、カンファレンスを開催し改善にむけて話し合っている。	排泄チェック表を参考に、それとなく声掛けや誘導を行ってトイレでの排泄を支援している。自立されている入居者には、見守る程度にしてその人の能力を大切にしている。自宅では、常時排泄支援が必要だったが入居後改善された事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の調整も行っているがオリゴ糖やヨーグルト等の提供や、運動にて自然排便につながるよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回の予定にはしているが入居者の体調や気分などその方のペースで入浴していただいている。グループホームでの入浴だけでなく職員や他者と一緒に銭湯へ行く機会も作っている。	八割ぐらいの入居者が職員の見守りのみで入浴されている。入浴予定は立っているが、本人のその日の体調や気分に変更する事もあり、その人に合わせて入浴を決めている。銭湯が好きな人には馴染みのお風呂屋に出掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣に合わせて就寝時間を調整している。休む時間やくつろげる時間が持てるよう声掛けを行っている。		



京都府 グループホーム鳳凰槇島（浮舟）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	協力医療機関や薬局と連携している。居宅療養管理指導も行い管理や把握に努めている。 内服の変更があれば、往診記録に記載し職員間で周知に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩や外出を行う事で気分転換につながる時間を提供している。出来る事を継続して行っていく事で役割のある生活につなげている。他者や職員と一緒に余暇活動を考え、楽しみのある生活が提供できるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別のケアが出来るよう美容院や銭湯、買い物など外との関わりが持てるよう支援している。 家族の協力でマッサージにも定期的に通っている方もいる。	日常的には近隣を散歩しているが、入居者の希望を聞きながら外出の機会を作っている。信楽に出掛けて大きな「たぬき」に驚いたり、宇治の植物園・城陽のイルミネーション見物等に出掛けて楽しんでいる。地域の文化祭や系列の特養の文化祭にも出掛けて、多くの人達との交流を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを使ったり介護者が支払いを行うのではなく、ご自身で支払いや残金の確認をしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話を掛けたい時には意向に沿っている。 お正月には年賀状を書いていただきご家族に新年の挨拶をしていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った植物を植え一緒に育てている、季節感が感じられる装飾も行っている。テラスにテーブルを設置し天気の良い日などは日向ぼっこもしている。共同生活場には金魚も飼っており楽しみの一つでもある。	共用空間は全体に清潔感がある。リビングはゆったり感があり、テーブルを一体化して全員が顔を見ながら食事したり、おしゃべりを楽しめる場所になっている。オープンキッチンには、調理の小道具類をぶら下げて家庭的な雰囲気を出している。窓際のスペースには、テレビとソファを配しゆっくり寛げる様にしている。窓の外はベランダが設けられて、季節の花やいちご・野菜が植えられており、団地の住民の往来も眺められるので解放感がある。不快感を招く様な、音や匂い・光等なく落ち着いた生活空間になっている。	

京都府 グループホーム鳳凰槇島（浮舟）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者同士でソファーに座ったり、隣同士の席で過ごされたりしている。 好きな時に自室に行き横になったり自由に過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や、馴染みのある物を家族にもってきていただけるよう声をかけている。	個室は、明るく落ち着いた空間になっている。ベッドやエアコン等は事業所で用意されているが、ダンス等はそれぞれ好みの物を使いやすく配置している。思い思いの飾り物を置いて自分の部屋作りをしている。映画の好きな人は、テレビとDVDを持って来て、自室でのんびり鑑賞して楽しんでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行が不安定な方や足に痛みがある方も手すりを持つ事で自力で歩行する事ができる。 意欲がある為痛みを把握しながら自立した生活が送れるよう見守りを行っている。		

